



パンケーキの木

山縣瑠奈

ある晴れた日、お母さんハリネズミが森を散歩していました。曲がり道をいったところに、彼女は輝くカエデの木を見つけました。それは彼女が今まで見た中で最も美しいものでした。



お母さんハリネズミは木の蜜を集め
て家に帰りました。家族みんな、父
さんハリネズミの作るパンケーキが
大好きだったので、この木の蜜でシ
ロップを作り、パンケーキにかけて
食べることにしました。

毎週日曜日、ハリネズミの家族は、
木から集めたおいしいシロップのお
かげで、近所でも有名になる位とび
きりおいしいパンケーキを作れるよ
うになりました。

ある日曜日、商人のキツネがやって来てドアをノックしました。

「町の人たちが、あなたのパンケーキは町一番だと私に教えてくれたのですが、本当ですか？」娘のハリネズミはこう答えました。

「その通り！私のお父さんはとても上手にパンケーキが作れるのよ。」

するとキツネは言いました。
「みんながあなたのパンケーキを食べてみたいことでしょう！毎週多めに作ってくれれば、私が欲しがっている人に売ってきます。そしたらあなたもきっと大きな家が建てられるようになりますよ。」
ハリネズミの家族はしばらく考えてから、キツネのいう通り売ってみることにしました。



毎週、お母さんハリネズミは森に行き、せっせと蜜を集めました。お父さんも一生懸命パンケーキを焼きました。ある日、お母さんハリネズミがふと木を見あげると、木は前ほど輝いていませんでした。目の前の傷だらけの木を見て、お母さんハリネズミは木がかわいそうになりました。それでも、キツネはハリネズミにもっともっと作るようないいいました。

とうとう母親のハリネズミはキツネに、大事なシロップを作るカエデの木が死にそうなので、これ以上パンケーキを作ることができないと言いました。キツネはたいそう怒り、さっさと帰つていきました。

ところがある夜、キツネはこっそり森にはいり、カエデの木を見つけて無理やり蜜をとろうとしたのです。すると、木の輝きは完全に消えあたりは真っ暗になりました。そしてその瞬間、どこかでギギギーっという怖い音がしました。

「バッタ——ーン！」キツネの前で木が地面に倒れました。キツネは後ろに転がり、ショックでただただ見つめていました。そしてハリネズミが怒った時の針のとげを思い出し怖くなりました。彼はもっていたお金もすべて投げ出し、後ろも見ずにあっという間に逃げていきました。次の日の朝、ハリネズミの家族は死んで倒れてしまった木を見つけて、池ができる位なきました。

それからしばらくして、悪いことをしてしまったとキツネがシャベルとバケツを持って戻ってきました。彼は木が枯れたところに種をまきました。



一年後、ハリネズミの子供たちが森で遊んでいたとき、彼らは輝く苗木を見つけ、叫びました。「光るカエデの木だよ！」家族はとても幸せな気持ちになり、一生懸命木の世話をし始めました。そしてもう二度とむりやり蜜を沢山とらないと誓いました。

おしまい。

3才～5才むき

